

オンライン・システム ニュースレター

学術情報センター [〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2]

目録情報課

図書目録情報係 TEL:03(4212)2355 FAX:03(4212)2375

雑誌目録情報係 TEL:03(4212)2360 FAX: 同上

相互協力係 TEL:03(4212)2365 FAX: 同上

共同利用課 TEL:03(4212)2135 FAX:03(4212)2150

システム管理課 TEL:043(285)4911 FAX:043(290)1380

目 次

〔特集： 学術情報センターの目録所在情報サービス〕

1. 目録所在情報サービス今後の展開	2
2. 目録所在情報サービスのあゆみ	5
3. 学術雑誌総合目録のあゆみ	13
4. 多元語対応目録システム移行後における検索・登録時の注意事項	16
5. 多元語対応目録システム運用開始に伴う外字データ整備	17
6. Webcat の改造（平成 11 年度）	21
7. 学術情報センターの移転及び国立情報学研究所への改組	22
8. 連載：総合目録データベースの品質管理事例集（その 5：図書所蔵編）	23
9. 目録所在情報サービス運用時間の変更	29
10. 教育モード接続先の変更	29
11. 個別版 CD-ROM サービス 平成 12 年度分募集	30
12. 会議開催報告	32
13. レコード調整	33

本誌は、次のホームページの目録担当者のページでも公開しています

<http://www.cat.op.nacsis.ac.jp/>

目録所在情報サービスの今後の展開

学術情報センター研究開発部教授
宮澤 彰

1. はじめに

多言語化の次の NACSIS-CAT/ILL の将来像について書いてくれ、と「オンライン・システムニュースレター」の担当から頼まれた。このタイトルでの発行も今号が最後で、なにかをということらしい。もともとオンラインサービスが目録システムしかなかった時代に、目録担当者への連絡用として始まり（直接使うことはほとんどないが、旧 CAT の呼び出しコマンドは ONLINE である）、NACSIS-IR 等のサービスが始まったときにはタイトル変更も検討されたが、同種のものが他に発行されなかったこともあって、そのままのタイトルで残った。（学総目を編集している立場として、タイトル変遷は少ないほうがよい）。タイトルバックに薄くはいつている NACSIS-CAT の文字は、「NACSIS-CAT ニュースレター」にタイトル変更するための布石であったとの説がある。（NACSIS-CAT がだんだん濃くなって、オンラインシステムがだんだん薄くなって、いつか消えたら、どこからタイトル変更したことになるのだ、という冗談もあった）

さて、ところで、長期のサービス開発計画が、公式に決められているわけではない。したがって、気楽に、夢や希望をまじえて展望してみることにする。

2. 国際展開

現在 NACSIS は米国のユティリティである OCLC 及び RLG と、ILL メッセージングシステムの相互接続を開発している。これを可能にしたのが、技術的には ISO の ILL プロトコルである。というよりは、ILL プロトコルを多くのユティリティ、図書館システムが実装するようになったことによる。この実装によって何が可能になるかということ、OCLC や RLG に接続して ILL サービスを行っている図書館に対して、NACSIS 参加館から、NACSIS-ILL システムを通じて、ILL 申込みをすることができるようになる。また、その逆である向こうの参加館から NACSIS-ILL 参加館に対する ILL 申込みもできるようになる。ただし、これはシステムレベルの話であって、ILL ポリシーの話はまた別である。この点については、現在国大図協で米国との試行プロジェクトを進めている。他に、現在つないでいる BLDSC に対する申し込みも ILL プロトコル使用に変更する予定である。これによって現在システム外で行っているステータスチェック等が、NACSIS-ILL を通じて可能となる。

NACSIS-CAT のほうでは、OCLC や RLG、あるいは他のユティリティ等をオンラインで参照ファイルのように使用する可能性がある。これも、技術的な点では情報検索応用プロトコル（ISO23950, JISX0807 であるが、米国規格 ANSI Z39.50 として広く知られている。）の普及によって可能になってきた。既に RLG がドイツ図書館との間でオンライン利用を可能としている。これまた、技術的に可能となっても（レコード形式の変換、文字コード等の点で技術的問題が若干残っているが）、料金や、お互いのメンバーシップ、所蔵情報の持ち方などの社会的、経済的問題を解決する必要がある。

ただ、システムやサービスのグローバル化は、米国のみならず、ヨーロッパ、日本でも大きな流れとなっており、その中で情報の流れを考えれば、これらの問題点を解決し、実現をさぐることは、当然の目標と考えている。

3. ネットワーク上の資源

総合目録とネットワーク上の資源の関係は、未解決といえよう。今年度の総合目録小委員会において、ようやく電子ジャーナル類の当面の扱いに結論を出したが、より一般的な、電子図書館資料、Web のページ、ネットワーク出版物を目録の世界でどのように扱っていくかは、結論が出ていない。より大きくは、目録の世界で扱うべきなのか、他の手段によったほうがよいのかも含め、未解決の大問題である。

一般的な索引データベース問題ということができるが、この問題は結局ネットワーク上での「出版」にあたる行為の社会的慣習が定まらなないと、具体的対応が取れないという問題でもある。例えば 15 世紀ヨーロッパの出版物（いわゆるインクナブラ）の段階で、目録規則を検討してもほとんど役には立たなかつたろうと想像される。少なくとも 1990 年代の我々は、同じような状況にあって、何をすべきか考えているところと言えよう。もちろん、Dublin Core のように、その中でイニシャティブ（この言葉もグローバル化と同様に現代米国のはやり言葉であるが）を發揮していこうという動きもあり、それらの社会情勢を見つつ対応することが必須となる。

もう少し身近な話にすると、Webcat での所蔵表示と電子図書館のリンクといった展開が考えられる。デジタル化されて一般アクセス可能な資料の場合、所蔵情報に URL を入れておくことにより、Webcat の所蔵表示からそこへのリンクをはることができる。ここまで、Web が一般化してくると Webcat の所蔵表示で図書館名をクリックしたら住所と電話番号しか出てこなかつたというのは、いかにも期待はずれに思えるが、資料そのものが表示されれば納得してくれるだろう。（もっとも、作っている図書館員側の努力はあまり見えずに、あたりまえとしか思ってくれない可能性は大である）

いずれにしても、所蔵情報は資料にアクセスするための情報で、アクセスの方法が変化・多様化すれば、対応していかなければならないのは当然である。

4. 目録作成ソースの多様化

現在の NACSIS-CAT は古典的な共同分担目録モデルに基づいている。要するに、各図書館にカタログがいて、ローカルな目録を作成している、それをオンライン総合目録の作成作業と同期して行うことにより、全体としての作業量が減るという考え方である。ところが、ここまで書誌ユティリティが一般化したことと並行して、米国でも目録作成の専門性、重要度は減り、いわゆるアウトソーシングも多くなってきたといわれている。この傾向は日本でも同様に進んでいると見ている。このような傾向の中での目録作成のシステムは、もう一度見直されてもよいだろう。

ある本についての書誌データは、世界中で 1 回作成すれば、あとはそれを利用できる、という書誌コントロールの理想は、書誌ユティリティの普及と、前述の国際化とによって、ようやく現実のものとなりつつある。この、1 回の書誌データ作成を、どのような資料について、だれが行うか、そして、NACSIS-CAT の中でそれをどのように利用できるかという問題を見直してもよいと思う。例えば、日本の場合、商業的に流通する大手の出版社の（カレントな）本は、TRC などいわゆる流通 MARC によってカバーされる率が高まっている。本の流通システムおよび図書館の資料管理システムと同期を取れば、いわゆる目録作業以前に書誌・所蔵情報の全体が確定していることも可能で、より合理化した総合目録作成が可能かもしれない。

ただ、一つの大学図書館のサービスする資料の 100%が、そのような方法でプロセス可能になるのは、近未来にはないだろう。したがって、現在のオンライン共同目録作成モデルを保存しつつ、共存して、他のモデルでの総合目録作成、維持、管理のシナリオも開発していく必要があるだろう。

5. 統合的な情報サービス

この NACSIS-CAT システムの構想が始まった時代から、筆者はいわゆる 2 次情報データベースと、総合目録データベースの統合的なサービスができないか、と考えていた。その後何度かこの構想はセンター内で検討されたが、必要な情報をだれがどのように作成、維持できるかという技術的問題、サービスシステムの開発上の技術的問題から見送られてきた。

しかし、最近の Web の普及は少なくとも、サービスシステムの開発に、新たな可能性を産み出している。NACSIS-CAT では、いわば特殊な操作であった LOOKUP や(こちらはめったに使われないが)TURN コマンドの操作が、ハイパーリンクとマウスクリック操作によりごく日常的なインタフェースになってしまった。前にも述べたように、所蔵館名をクリックすればその資料が見れるのはあたりまえ、という感覚を持ったユーザが増えてきた。実際多くの情報サービスでは、こういった機能を利用して優れたユーザインタフェースを提供している。NACSIS もその情報サービスを統合的に見直して、設計することは十分に意味がある。もっとも、これは作成された総合目録データベースの利用の話であって、データベース作成システムとしての NACSIS-CAT の話ではないかもしれない。

6. おわりに

NACSIS 内で進行中のこと、検討されていること、個人的に夢想していることとりまぜて、引っ越しのどさくさの中、大急ぎで書いた文章である。茗荷谷の建物で書いた最後の仕事となった。これを書いている現在、すでに LAN はとまりワークステーションも動かず、サブノートパソコンで原稿を書いている。書き上げたものはメールも使えないので、フロッピー渡しになるだろう。ということで、急ぎ仕事のいいかげんな話と思って読んでもらえれば幸いである。

目録所在情報サービスのあゆみ

目録所在情報サービスのあゆみを年譜でたどるとともに、総合目録データベース（ILL データベースを含む）に関する現状統計を示して、15 年間にわたり文献情報センターと学術情報センターで行ってきた目録所在情報サービスの取りまとめとします。

1. 年譜

年月	イベント	システム管理関連	入力基準等
S59. 3 [1984] S59.10 S59.12	文献情報センター・システム（目録システム）と東京工業大学との接続	メインシステム導入（HITAC M-280H） 目録端末導入	目録情報の基準（検討案）刊行
S60. 3			
S60. 4 [1985] S60. 7 S61. 3	目録所在情報サービスの運用開始 目録所在情報サービス利用に関する暫定規則施行 図書目録システムによる登録開始（和図書・洋図書）	運用時間（月 13 - 17 時，火・水・金 9 - 17 時，木・土 9 - 12 時）	目録システム利用マニュアル・データベース編初版 1 刷刊行
S61.4 [1986] S61.11 S61.12 S62.1 S62.2 S62.3	学術情報センター発足 オンライン・システムニュースレター刊行開始	運用時間延長（月曜午前中） リプレース（HITAC M-680H） 業務用と教育用システムの分離運用 運用時間延長（～18 時）	目録情報の基準（データベース編初版第 3 刷）刊行 雑誌所蔵巻年次の追加表示，LOOKUP 先での所蔵登録の実現等
S62. 5 [1987] S62. 6 S62.11 S62.12 S63. 1	遡及入力事業の開始 雑誌目録システム（和雑誌）の運用開始	DBMS 変更（M204 RDB1）	LINKTO コマンド発行時の検索キーの変更 典拠リンクの任意化 書誌構造の 2 階層化

年月	イベント	システム管理関連	入力基準等
S63. 5 [1988] S63. 7 S63. 9 S63.12 H 1. 1 H 1. 2 H 1. 3	RECON ファイルの運用開始 雑誌目録システム（洋雑誌） の運用開始 学総目欧文編 1989 年版刊行	図書所蔵件数 100 万件 リプレイス（HITAC M-684H） 同時接続端末台数 400 台	PASS，SET コマンドの追加等 GPO/MARC 導入 COPY，GLANCE コマンドの 追加，ニュース画面の追加等
H 1. 4 [1989] H 1. 9 H 1.12 H 2. 1 H 2. 3	NACSIS-IR での図書目録の 公開 接続機関 100 機関 学総目 CD-ROM 版刊行	DBMS 変更（RDB1 XDM /RD）	コーディングマニュアルの刊行 開始 「音楽資料の取扱い」が決定 JAPAN/MARC(S)の導入 所蔵レコードの削除情報の表示 等
H 2. 9 [1990] H 3. 2		同時接続端末台数 500 台	非図書資料に対する資料種別コ ードの運用開始
H 3. 4 [1991] H 3. 5 H 3. 8 H 3.11 H 3.12 H 4. 1 H 4. 3	英国 CAT プロジェクトスタ ート ILL システムのモニター実施 ILL システム全国説明会 学総目和文編 1991 年版刊行	図書所蔵件数 500 万件 リプレイス（HITAC M-880）	UTL 繰返数の変更，AUTH に よる統一書名典拠検索の実現等 USMARC（非図書資料）導入 USMARC（統一書名典拠）に 音楽作品を導入 目録情報の基準第 2 版刊行 レコード作成日付・変更日付の 表示 ILL システム利用マニュアル刊 行
H 4. 4 [1992] H 4. 6 H 4. 7 H 4.11 H 5. 3	ILL システム運用開始 利用規則の改訂（利用者に短 大・高専を追加） 学総目全国調査用 CD-ROM システム作成 UNIX 版 UIP（第 1 期）開発 個別版 CD-ROM システム（第 1 期）開発	SINET 運用開始 運用時間の変更（木曜日休止か ら土曜日休止）	レコード作成・修正参加機関 ID の表示，CPYNT フィールドの 新設 ILL オンライン統計，参加機関 一覧機能の追加等

年月	イベント	システム管理関連	入力基準等
H 5. 4 [1993]	ILL システム Request コマンド運用開始	図書所蔵件数 1,000 万件	
H 5. 5	UNIX 版 UIP 提供説明会		
H 5. 8	利用資格の拡大(大学等以外の図書館を追加)		
H 5. 9			「目録情報の基準運用細則」作成検討部会での検討開始
H 5.10	ILL システムバックファイルの運用開始		典拠レコード注記フィールド必須化
H 5.12			図書書誌レコード修正指針の運用開始
H 6. 2		同時接続端末台数 1,000 台	件名ヨミフィールドの追加等
H 6. 3	UNIX 版 UIP (XUIP) の頒布開始		遡及入力指針の運用開始 INQUIRE コマンドの追加
H 6. 4 [1994]	ILL システム BLDSC への外部依頼サービス開始 個別版 CD-ROM モニター開始		JAPAN/MARC(S)所蔵情報の表示等
H 6. 6			参加組織情報の表示・修正機能の追加
H 6.12		千葉分館に移設	
H 7. 3	学総目欧文編 1994 年版刊行		
H 7. 4 [1995]			フランス語資料遡及入力開始
H 7. 5	個別版 CD-ROM の提供開始		
H 7. 6	新 CAT/ILL システム検討会議での検討開始		
H 7.12		図書所蔵件数 2,000 万件 同時接続端末台数 1,400 台	
H 8. 1		リプレイス (M-5800 + SC2000) (汎用機とオープンシステムの併用)	
H 8. 2			中国語資料 DB 化検討 WG での検討開始
H 8. 3			目録システム利用マニュアル等を WWW で公開
H 8. 4 [1996]	ILL システム, 国立国会図書館への外部依頼サービス開始	データベースのサーバ移行に先立ち, 連続負荷テスト実施	
H 8. 8	新 CAT/ILL システム対応のためのメーカー説明会実施		
H 8. 9	新 CAT/ILL システムプロトコル CATP の公開		
H 8.11 ~	新 CAT/ILL システム全国説明会 を開催		
H 8.12	接続機関 500 機関	データベースのサーバ移行実施, DBMS の変更 (XDM/RD ORACLE)	基本辞書の「新字源」を使用中止 NACSIS-CAT/ILL Q&A DB を WWW で公開
H 9. 3	学総目和文編 1996 年版刊行 学総目 CD-ROM 1996 年版刊行	新 CAT テストサーバ公開	

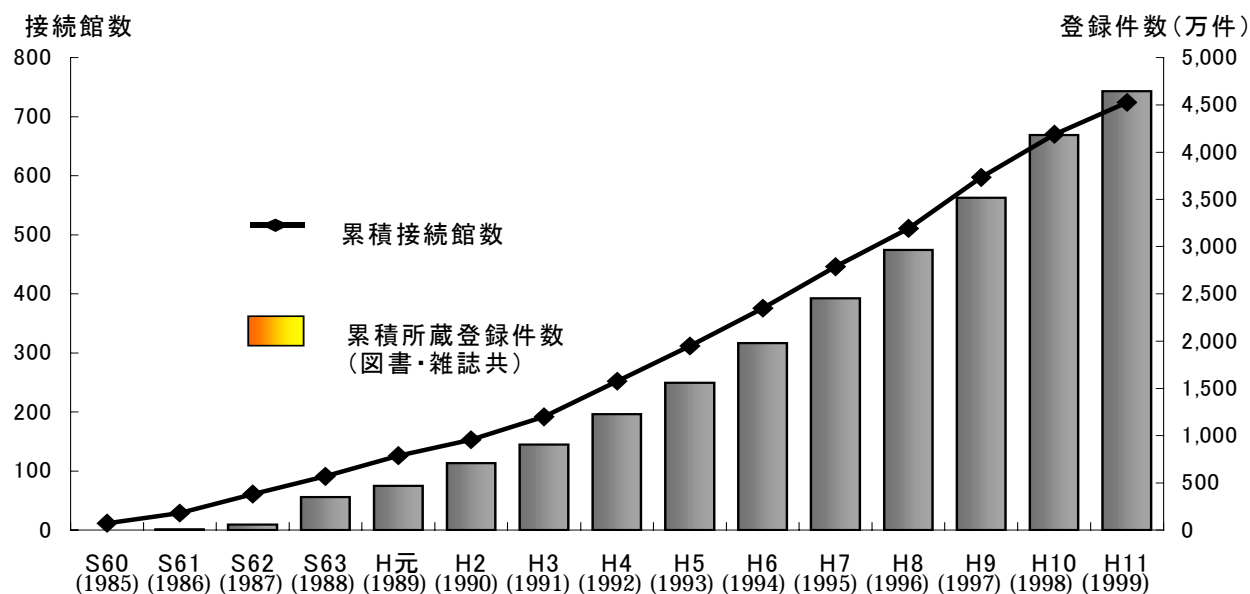
年月	イベント	システム管理関連	入力基準等
H 9. 4 [1997] H 9.11 H 9.12 H10. 2 ~ H10. 3	Webcat 試行サービス開始 新 CAT/ILL システム全国説明会 を開催	データベースの和洋ファイル統合 新 CAT 業務サーバ公開 図書所蔵件数 3,000 万件 新 ILL テストサーバ公開	言語コードの必須化 目録情報の基準第 3 版刊行 コーディングマニュアル累積版刊行
H10. 4 [1998] H10. 5 H10. 6 H10.11 H11. 3	Webcat 本サービス開始 新 CAT/ILL システム全国説明会 を開催 学総目欧文編 1998 年版刊行	新 ILL 業務サーバ公開 システム運用時間の延長 (~ 20 時)	図書館蔵書の受入事業を開始 ドイツ MARC 導入 「中国語資料の取扱いについて」公開 目録システム利用マニュアル入門編刊行 総合目録 DB の品質管理ビデオ刊行
H11. 6 [1999] ~ H11. 6 H11. 8 H11. 9 H11.10 H11.11 H11.12 H12. 1 H12. 2	新 CAT/ILL システム全国説明会 (目録システムの多言語対応) を開催 接続機関 700 機関 学総目 CD-ROM1998 年版刊行 学術総合センター (千代田区一ツ橋) に移転	図書所蔵件数 4,000 万件 図書書誌件数 500 万件 多言語対応テストサーバを公開 リプレイス (M5800/5600 + VT850) データベースの多言語対応 (Oracle HiRDB) システム運用時間の延長 (第 4 木曜日午後)	 韓国・朝鮮語資料 DB 化検討 WG での検討開始 目録情報の基準第 4 版刊行 CHINA-MARC 導入

2. 参加機関数の推移 (設置主体別)

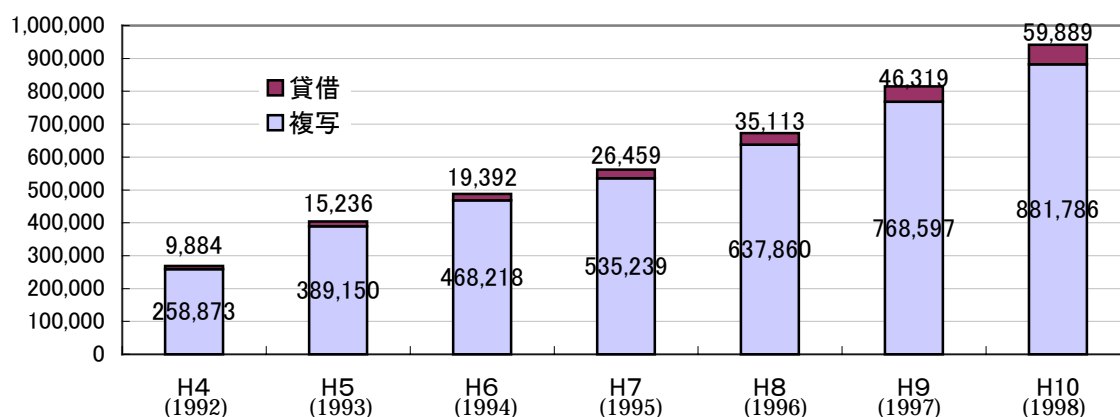
(平成12年1月末日現在)

区分	S59	S60	S61	S62	S63	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	全機関数
国立大学	3	12	25	49	70	82	93	95	96	97	97	98	98	98	99	99	99
公立大学	0	0	0	0	0	3	4	9	16	23	29	35	35	41	46	54	61
私立大学	0	0	4	12	17	36	49	78	111	147	186	225	254	283	313	341	444
共同利用機関等	0	0	0	0	4	5	5	8	11	12	12	12	12	12	14	14	17
短期大学 高専	-	-	-	-	-	-	-	-	9	15	26	33	58	84	116	132	626
その他	0	0	0	0	0	0	2	2	9	18	26	43	54	79	82	84	-
計	3	12	29	61	91	126	153	192	252	312	376	446	511	597	670	724	-
増加数	3	9	17	32	30	35	27	39	60	60	64	70	65	86	73	54	-

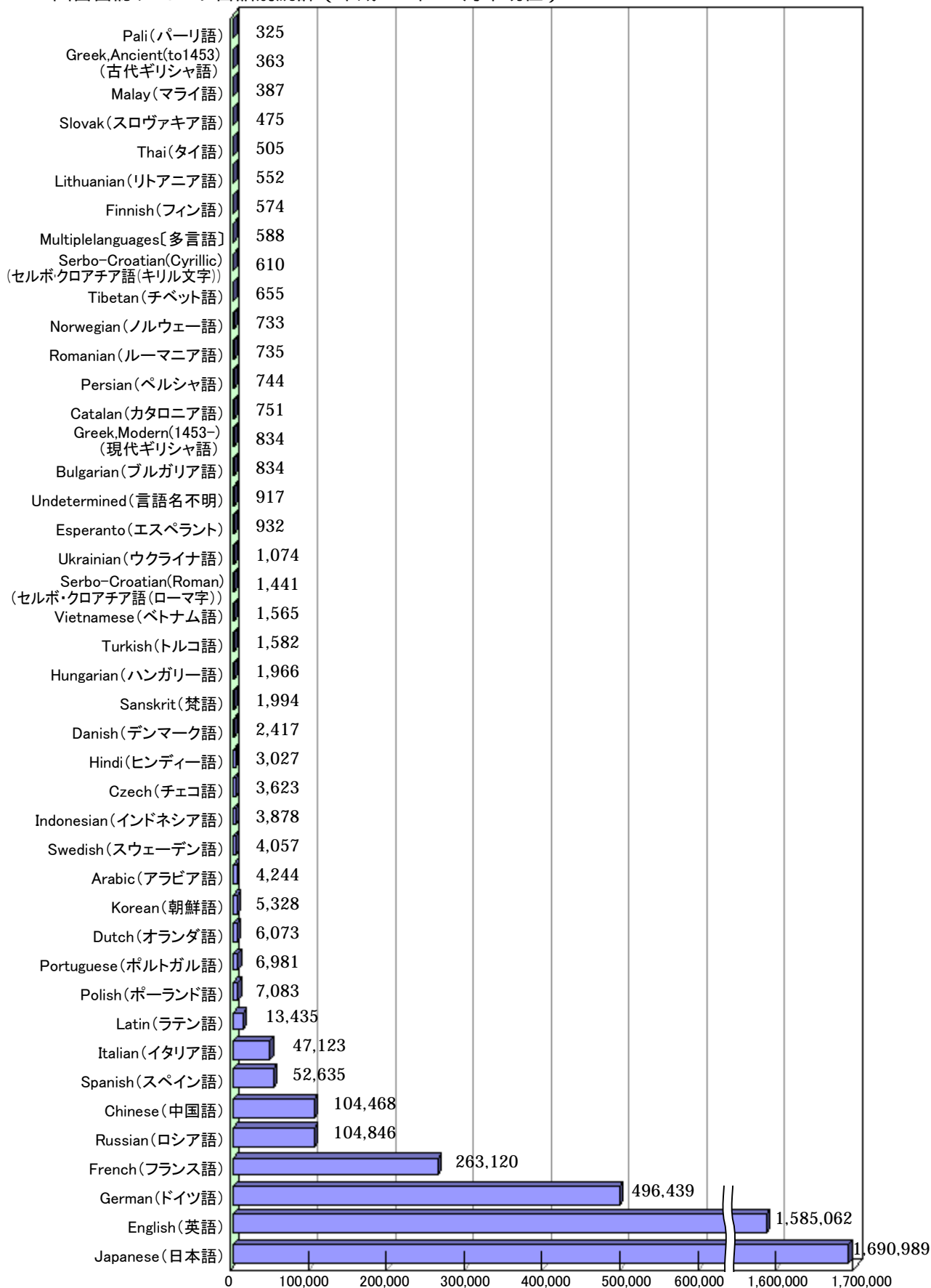
3. 総合目録データベースレコード件数の推移 (平成11年12月末現在)



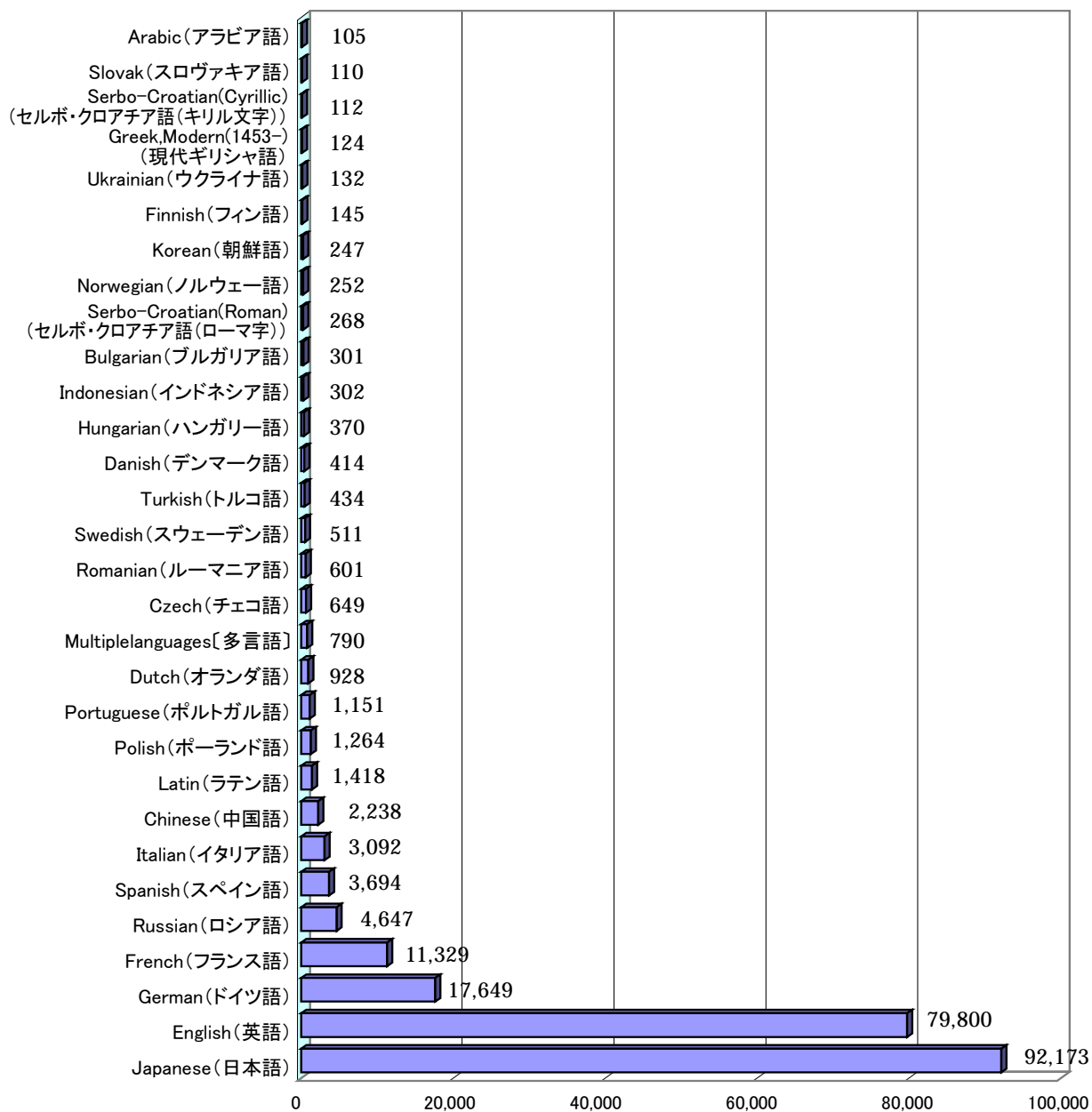
4. ILL 終了レコード数の推移 (平成11年3月末現在)



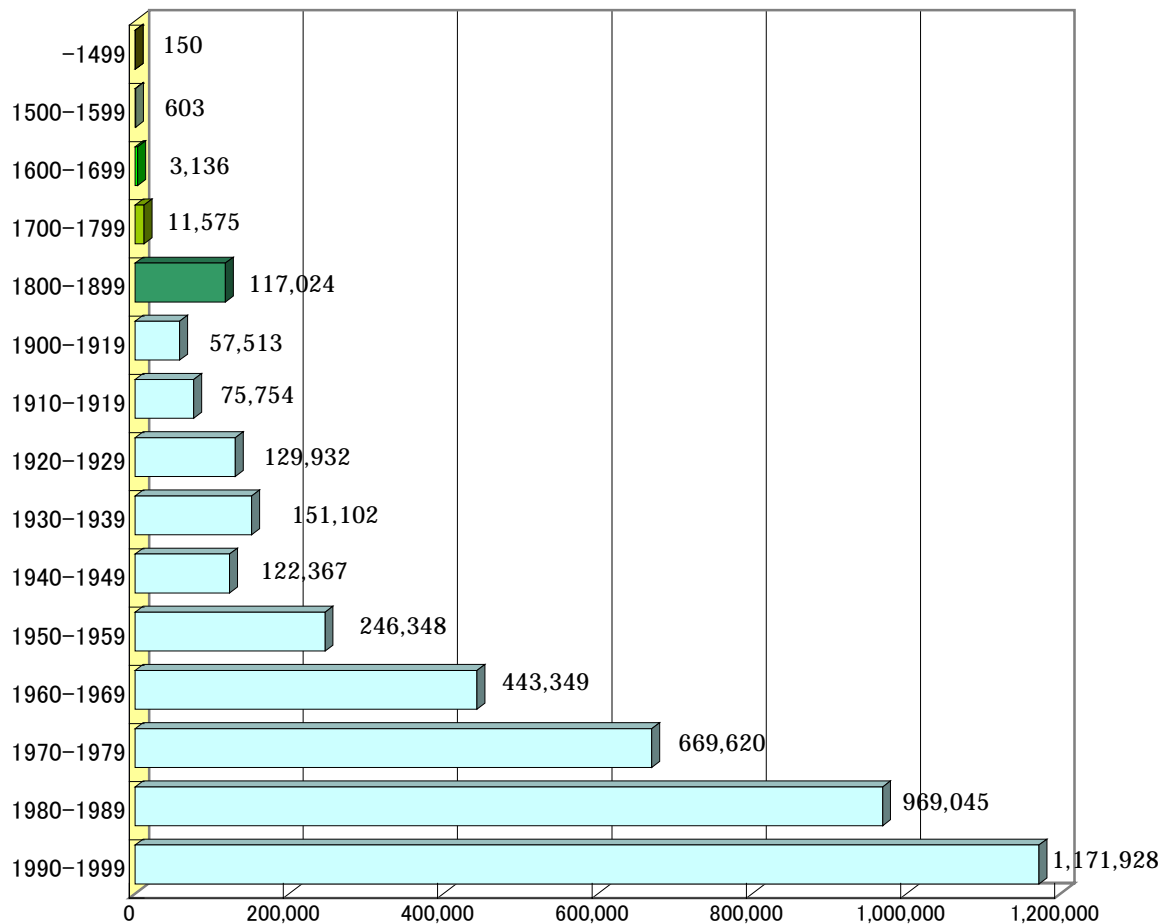
5. 図書書誌レコード言語別統計 (平成 11 年 12 月末現在)



6. 雑誌書誌レコード言語別統計 (平成 11 年 12 月末現在)



7. 図書書誌レコード出版年別統計 (平成 11 年 12 月末現在)



(図書目録情報係)

学術雑誌総合目録のあゆみ

学術雑誌総合目録は、以下のように刊行されてきました。ここでは、その刊行のあゆみと学術雑誌総合目録編集事業に関する統計データについて報告いたします。

1. 刊行物

冊子体

	種類	刊年	編集	参加数	主な参加機関
1	自然科学欧文編昭和28年版	1953	文部省大学学術局	7	旧7帝大
2	人文科学欧文編昭和28年版	1953	文部省大学学術局	7	旧7帝大
3	自然科学和文編昭和29年版	1954	文部省大学学術局	7	旧7帝大
4	人文科学和文編昭和29年版	1954	文部省大学学術局	7	旧7帝大
5	自然科学欧文編1957年版	1957	文部省大学学術局	63	大学, 直轄研究所
6	人文科学欧文編1958年版	1958	文部省大学学術局	62	大学, 直轄研究所
7	自然科学和文編昭和34年版(1959)	1959	文部省大学学術局	61	大学, 直轄研究所
8	人文科学和文編昭和34年版(1959)	1959	文部省大学学術局	48	大学, 直轄研究所
9	自然科学欧文編(サプルメント第1巻)1960年版	1960	文部省大学学術局	60	大学, 直轄研究所
10	人文科学欧文編(サプルメント第1巻)1962年版	1962	文部省大学学術局	58	大学, 直轄研究所
11	自然科学欧文編(サプルメント第2巻)1962年版	1962	文部省大学学術局	65	大学, 直轄研究所, 国立国会図書館, JICST
12	自然科学欧文編1966年版	1966	文部省大学学術局	253	大学, 研究機関, 国立国会図書館
13	人文科学欧文編1967年版	1967	文部省大学学術局	220	大学, 研究機関, 国立国会図書館
14	自然科学和文編1968年版	1968	文部省大学学術局	316	大学, 研究機関, 国立国会図書館
15	人文科学和文編1973年版	1973	文部省大学学術局	294	大学, 研究機関, 国立国会図書館
16	自然科学欧文編1975年版	1975	国際医学情報センター	321	大学, 研究機関
17	自然科学欧文編1975年版(第1補遺版)	1975	国際医学情報センター	317	大学, 研究機関
18	自然科学欧文編1975年版(第2補遺版)	1976	国際医学情報センター	317	大学, 研究機関
19	自然科学欧文編1975年版(第3補遺版)	1977	国際医学情報センター	317	大学, 研究機関
20	自然科学欧文編1979年版	1979	国際医学情報センター	339	大学, 研究機関
21	人文・社会科学欧文編1980年版	1980	東京大学情報図書館学研究センター	355	大学, 研究機関
22	欧文編(統合版)1982年版補遺版	1982	東京大学情報図書館学研究センター	489	大学, 研究機関
23	和文編1985年版	1986	東京大学文献情報センター	623	大学, 研究機関, 地方公共団体
24	欧文編1988年版	1989	学術情報センター	633	大学, 研究機関, 地方公共団体
25	和文編1991年版	1992	学術情報センター	702	大学, 研究機関, 地方公共団体
26	欧文編1994年版	1995	学術情報センター	664	大学, 研究機関, 地方公共団体
27	和文編1996年版	1997	学術情報センター	780	大学, 研究機関, 地方公共団体
28	欧文編1998年版	1999	学術情報センター	854	大学, 研究機関, 地方公共団体

CD-ROM版

29	CD-ROM版1989年版	1990	学術情報センター	678	大学, 研究機関, 地方公共団体
30	CD-ROM版1996年版	1997	学術情報センター	780	大学, 研究機関, 地方公共団体
31	CD-ROM版1998年版	1999	学術情報センター	854	大学, 研究機関, 地方公共団体

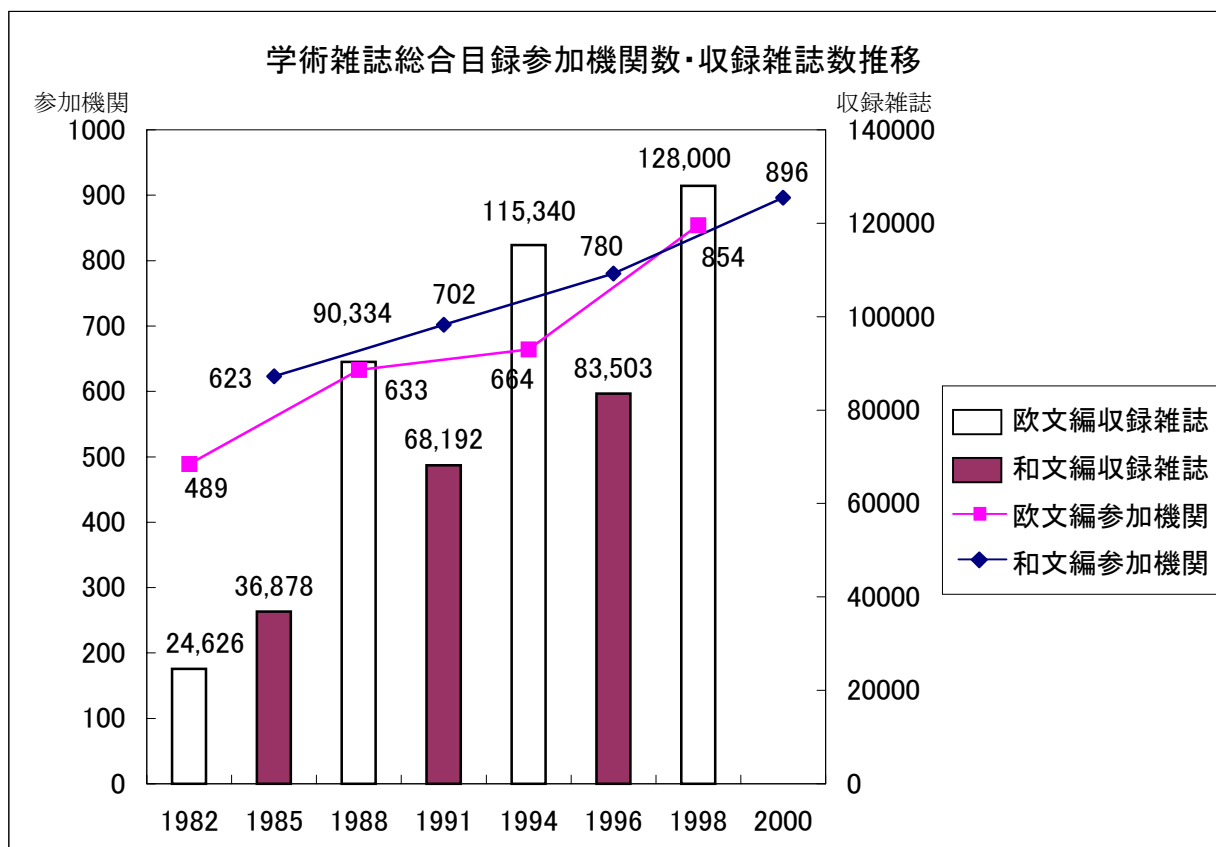
誌名変遷マップ

32	和文編誌名変遷マップ [1987]	1987	学術情報センター		
33	欧文編誌名変遷マップ 1990	1990	学術情報センター		

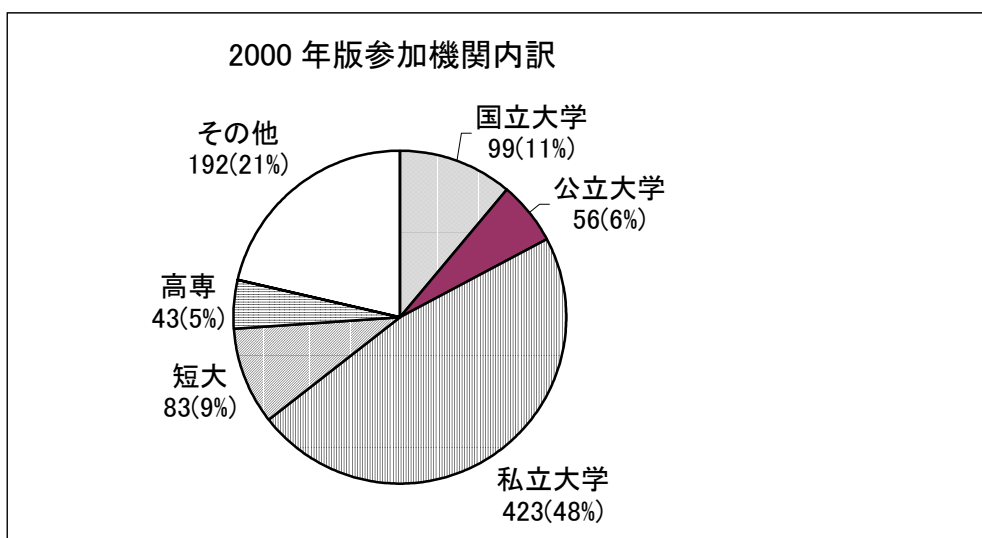
2. 参加機関

当初，自然科学欧文・和文，人文科学欧文・和文という4編に分けた刊行でしたが，1982年以降，自然科学・人文科学を統合したことにより，欧文編，和文編の2編を交互に刊行し，現在に至っています。

統合後の参加機関数及び収録雑誌数の推移は，以下のとおりです。

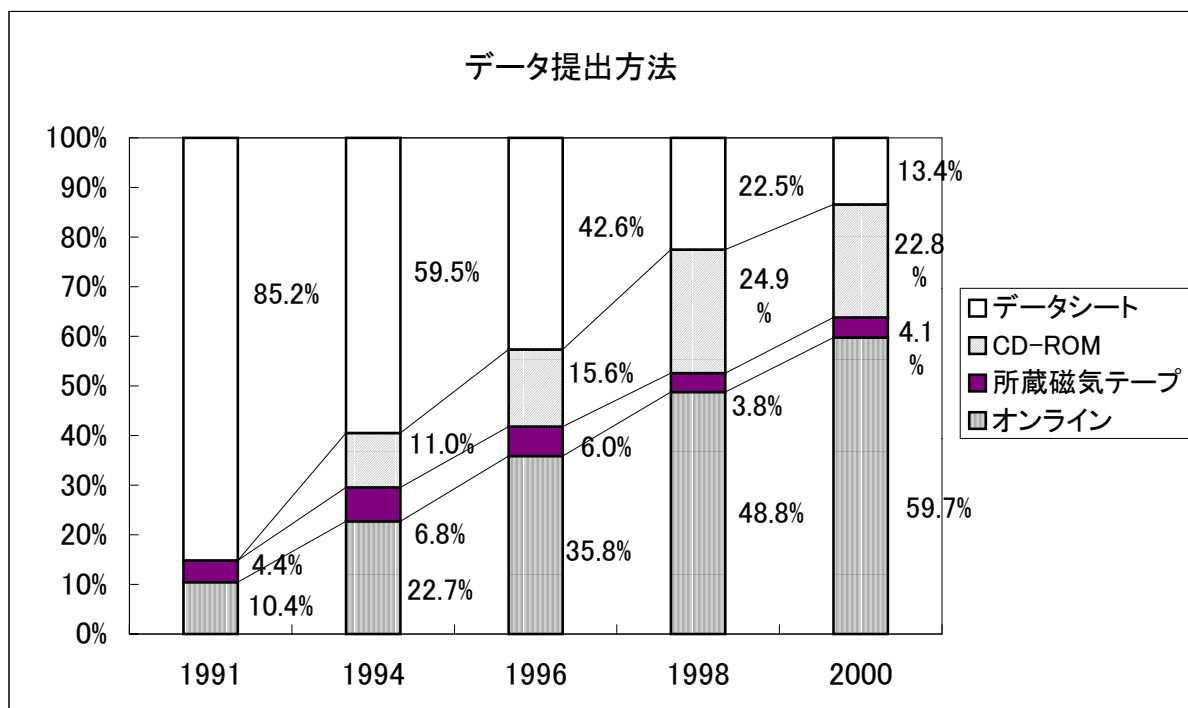


平成11年度（1999年）から編集を開始した和文編の2000年版参加機関内訳は，以下のとおりです。



3. データ提出方法

各機関からのデータ提出方法は、以下のグラフのとおり大きく変貌してきました。



オンライン接続が増加し、CD-ROM を利用できる環境が広がっていることから、データシートの利用が年々減少し、この10年間でデータシートとオンラインの割合が逆転しています。今後ますます、オンラインによるデータ提出に移行していくものと予測しています。

以上、学術雑誌総合目録のあゆみを統計により概観してきました。

手作業による編集の時期(1953-1973年)、人手により作成されたデータをコンピュータによって編集した時期(1975-1994年)を経て、データ更新の大半がオンラインにより可能となりました。現在は、更新された所在情報がタイムラグなしに、Webcatで参照できるという状況に至っています。

参加館の御協力により、ここまで刊行が継続されてきた学術雑誌総合目録です。現在も和文編2000年版のデータ作成作業をお願いしているところですので、引き続き御協力をお願いします。

(雑誌目録情報係)

多言語対応目録システム移行後における検索・登録時の注意事項

多言語対応目録システムへの移行後、特定の文字種についてはシステム上の取扱いが異なるようになりました。それらの文字について、検索・登録上の注意事項を以下にまとめましたので、御確認ください。

1. 検索時の注意事項

文字種	インデクス	注意事項
共通 1) 目録システム用文字セット（以下「文字セット」）に含まれない文字	これまで通り、基本辞書の番号や LC 方式の翻字形を黒菱（ ）で囲んだ形となっている。	これまで通り、基本辞書の番号や LC 方式の翻字形を黒菱（ ）で囲んだ形で検索する。
2) 文字セットには含まれているが、使用するクライアントがサポートするエンコーディングに含まれない文字	正規化処理後の UCS 文字となる。	Uを冒頭につけた UCS 番号を黒菱（ ）で囲んだ形、もしくは、正規化されているものであれば正規化された形で検索する。
漢字以外 1) 踊り文字とデリミタ	文字セットの範囲外となった特殊アルファベットと制御文字以外は、従来通りであり、黒菱（ ）も踊り文字のままである。	踊り文字はそのまま入力する（ただし、長音、ダッシュ、ハイフン、負記号は正規化処理により除去される）。 デリミタは検索の対象とならない。
2) 従来の EXC 文字 A) 対応するラテン文字があるもの B) 対応するラテン文字のないもの（アイン・アリフ等）	これまで通りその文字にインデクスが正規化されている。 システム移行後はトルツメ処理に仕様が変更された。	対応するラテン文字で検索する。 これまで該当する文字コードで検索していたが、トルツメで検索する。
3) 従来の EXC 文字ではない 拡張ラテン文字・拡張キリル文字等 A) 拡張ラテン文字 B) 拡張ラテン文字以外の拡張文字	対応するラテン文字・キリル文字等への正規化処理をしていない。 カノニカルオーダリングによる正規化処理を行っているので、「基底文字と結合文字との組み合わせ」に対応する「合成済文字」があれば、合成済文字に正規化される。 カノニカルオーダリングによる正規化処理を行っていないので、「合成済文字」とそれに対応する「基底文字と結合文字との組み合わせ」は別の文字として扱われる。	該当する文字コードのまま検索する必要がある。 「基底文字と結合文字との組み合わせ」あるいは対応する「合成済文字」のどちらでもよい。 「合成済文字」で検索できない場合は、対応する「基底文字と結合文字との組み合わせ」で検索する。

文字種	インデクス	注意事項
4) ピンイン	現在は、ストップワードについて言語別に対応していないので、ピンインがストップワードに該当する場合、インデクスとはならない。	現在のところ、検索することはできない。
漢字 1) 「JISX0208:1997」の包摂規準で包摂される文字	包摂する文字として扱われる。	包摂を意識せずに検索してよい。
2) 「漢字統合インデクス」で正規化されているもの	同じ文字として扱われる。	漢字統合インデクスを意識せずに検索してよい。

2. 登録時の注意事項

文字種	登録時の処理	注意点
共通 1) 目録システム用文字セット（以下「文字セット」）に含まれない文字	ゲタ（≡）に置換される。	これまで通り、基本辞書の番号やLC方式の翻字形を黒菱（ ）で囲んだ形で登録する。
2) 文字セットには含まれているが、使用するクライアントがサポートするエンコーディングに含まれない文字	U を冒頭につけた UCS 番号を黒菱（ ）で囲んだ形で登録すると、UCS 文字として登録される。	U を冒頭につけた UCS 番号を黒菱（ ）で囲んだ形で登録することを原則とする。
3) 文字セットには含まれているが、存在するどのクライアントでも表示できない文字		文字セットに含まれない文字に準じて登録することができる。
4) 文字セットに含まれ、一種類以上のクライアントで表示することもできるが、使用するクライアントがサポートするエンコーディングに含まれない文字		暫定的に、文字セットに含まれない文字に準じて登録することができる。ただし、すでに UCS で登録され、U を冒頭につけた UCS 番号が黒菱（ ）で囲まれて表示されているものを、この方法で修正してはならない。
漢字以外 1) 拡張ラテン文字	「合成済文字」が存在する場合、「基底文字と結合文字の組み合わせ」で登録してもカノニカルオーダリングによる正規化処理によって「合成済文字」に置換される	「合成済文字」、「基底文字と結合文字の組み合わせ」どちらで登録してもよい。
2) 拡張ラテン文字以外の拡張文字	カノニカルオーダリングによる正規化処理を行っていない。	記述された文字に最も近い文字で登録しなくてはならない。

文字種	登録時の処理	注意点
漢字 1) 「JISX0280:1997」の包摂 規準で包摂される文字	文字セットに含まれてい ても、包摂する漢字に自動的 に置換される。	包摂を意識せずに、記述された 文字で登録してよい。
2) 文字セットには存在する が、使用するクライアント がサポートするエンコーデ ィングに含まれない漢字		暫定的に、該当のクライアント で扱える対応する漢字に置き換 えて登録することができる。 ただし、本来の漢字で登録され ているデータをこの方法で修正 することはできない。

3. 用語解説

踊り文字／デリミタ／特殊アルファベット／制御文字／EXC 文字／ストップワード

「目録システム利用マニュアル検索編 第4版」参照

目録システム用文字セット／包摂規準

「目録情報の基準 第4版」参照

カノニカルオーダリング／合成済文字／基底文字／結合文字

UCS では、文字の中には、いくつかの要素に分けることのできるものがあるとしている。例えば、カタカナの「ガ」は、「カ」と濁点「ゝ」に分けることができ、ドイツ語の記述によく使われる「ë」は、「e」とウムラウト「¨」に分けることができる。この場合、「カ」や「e」を基底文字、濁点やウムラウトを結合文字、「ガ」や「ë」を合成済文字という。

そして、基底文字の直後に結合文字が記述されている場合、その文字列は対応する合成済文字と同じ文字として扱う。なお、結合文字は一文字とは限らず複数のものが記述される場合がある。結合文字が二文字の場合は、全てが合成済のもの、最初の結合文字と合成済でその直後に二つ目の結合文字のあるもの、基底文字と結合文字二つが記述されているものの3通りの記述方法があることになる。ただし、出現が予測される全ての合成済文字にコードポイントを与えているわけではないので、コード表を確認する必要がある。従来の EXC 文字の中にも、1文字で対応するものが UCS にない場合があるので、注意しなくてはならない。多言語対応サーバの中では、以上のような、いくつかの記述方法が許されている文字について、一つの記述方法に統合する処理を行っており、この処理によってカノニカルオーダリング (Canonical Ordering) を実現している。

EXC 文字/UCS コード対応表, 拡張ラテン文字定義表 (EXC 文字以外) の HP

http://www.cat.op.nacsis.ac.jp/INFO/newcat/jissou_siyo/catp11-kai.html

漢字統合インデクス

UCS には、現在の版においても、2 万 902 字の漢字が含まれている。これらの漢字には、旧字と新字、繁体字と簡体字のように、互換性のあるものが含まれている。漢字を使って検索しようとした場合、そのままだと、互換性のある漢字のうちどの漢字が記述に使われているのかを確認するか、全ての組み合わせを試みなければ、検索漏れが発生する。

このため、互換性のある漢字についてインデクスを統合し、検索の際に検索語の漢字にも同じ統合処理を行い、検索漏れの発生を防ぐこととした。

統合のためのテーブル作成作業は、総合目録小委員会の委員に委嘱したが、その際の参考資料として、以下のものが報告されている。

- ・「日本工業規格 国際符号化文字集合(UCS) - 第一部 体系及び基本多言語面」JIS X0221-1995(ISO / IEC 10646 - 1:1993) (日本規格協会, 1995)
- ・「JIS 漢字字典」芝野耕司編著 (日本規格協会, 1997)
- ・「同音漢字の書き換えについて」(「国語表記実務必携」改訂版 文化庁国語課国語研究会編集, ぎょうせい, 1992)
- ・「JIS 漢字における国字・新字・異体字の典拠 JIS 漢字幽霊文字研究序説」笹原宏之(「文化女子大学紀要.人文・社会科学研究」第3集,1995.1)
- ・「中華人民共和国国家標準情報交換用漢字編碼字符集基本集 GB2312-80」(GB 基本集)(技術標準出版社, 1981)

この他、「歳」と「才」など、字典類を参照して気がついたものが統合されている。ただし、この「歳」と「才」でも明らかなように、統合されたものが完全互換なわけではない。年齢の単位の場合には互換性があるが、「才能」の意味の場合等には互換性がない。このように、今回の統合インデクスは、検索漏れを防ぐことを目的としているため、かなり広い範囲で統合を行っているといつてよい。

この方針については、すでにいくつか問題点の指摘も受けているが、実際の運用を行った上で、改良の是非を検討することとしたい。

漢字統合インデクスについての HP

http://www.cat.op.nacsis.ac.jp/INFO/newcat/kanji/kui_about.html

(図書目録情報係)

多言語対応目録システム運用開始に伴う外字データ整備

平成 12 年 1 月の多言語対応システム運用開始時に、総合目録データベースの UCS 化を実施しました。以降、本センターでは、UCS データベースの外字データ整備を行っています。

整備の対象は、外字基本辞書の検字番号で登録されていたもののほか、目録システム用文字セットの範囲外となるためにゲタ文字に変換されたものも含んでいます。

不明文字の確認に御協力いただいた図書館には、この場を借りてお礼申し上げます。

1. 大漢和辞典の検字番号（大漢和番号）付与漢字

UCS - 大漢和番号対応テーブルにより、UCS への一括変換を行いました。現在は、UCS に対応する文字がない大漢和番号だけとなっています。

一括変換できたレコードは 20,042 件で、変換できなかったレコード 1,360 件は大漢和番号のまま残っています。

2. 広漢和辞典の検字番号（広漢和番号）、新字源の検字番号（新字源番号）付与漢字

広漢和番号をもつレコード 3,519 件、新字源番号をもつレコード 1,369 件については、学術情報センターで対応する UCS 文字に変換する作業を行っています。UCS に対応する漢字がない場合は、大漢和番号に変換します。

なお、新字源番号については、新字源の刷によって番号が異なるため（本誌 57 号「基本辞書の変更」）、所蔵図書館に情報源による漢字の確認とコピーの送付をお願いしました。

検字番号が不明なレコード 555 件についても、新字源と同様の作業をいたします。

3. ゲタ文字

目録システム用文字セットで扱うことのできない文字・記号については、一括してゲタ文字（≡）に変換されました（6,317 件）。これらは、次のような取扱いとします。

(1) 単独で出現するはずのない EXC 文字（DF22～DF3E）

DF22～DF3E の音標符号は、本来は単独では出現しないはずのものですが、形が似ている別の記号と誤って単独で用いられている例があります。これらは記述内容から判断して、適切な記号へと変更する作業を行っています。

(2) 目録システム用文字セットで取扱わない文字・記号

次の文字・記号は、目録システム用文字セットの範囲に含まれません。これらは、「目録情報の基準・第 4 版 11.1.3 特殊文字・記号」に基づき、他の文字に置き換える作業を行っています。

・移行前は入力できた文字：添字・合成文字のための制御記号（上、下等）、DF21（Registered-mark）

・本来入力してはいけない外字：ローマ数字(II, ix 等)、cm、括弧付き文字（株等）、メーカー固有の音標符号付ローマ字

(3) 移行前からゲタ文字であったもの

資料現物にあたらないと文字・記号を確認できないため、所蔵図書館に情報源による確認とコピーの送付をお願いしました。

（図書目録情報係）

Webcat の改造(平成 11 年度)

平成 11 年度の改善事項として以下の改造を行い、平成 12 年 4 月にリリースする予定です。

(1) ヨミの表示

図書書誌詳細表示の下記のフィールドについて、カナヨミあるいはその他のヨミを表示します。これは、海外の利用者から要望が強かったものです。

フィールド	参照先フィールド
本タイトル	TRR, TRVR
著者標目形	AHDNGR, AHDNGVR

(例)

大学図書館のシステム化：大学図書館における情報処理トータルシステムの開発 / 根岸正光〔ほか〕共編<ダイガク トショカン ノ システムカ：ダイガク トショカン ニ オケル ジョウホウ ショリ トータル システム ノ カイハツ>. -- (BN01266814)
 東京：紀伊国屋書店, 1981.10
 531p ; 27cm
 注記：文部省科学研究費補助金特定研究
 著者標目：根岸, 正光<ネギシ, マサミツ>
 分類：NDC8 : 014.37 ; NDLC : UL31 ; NDLC : UL274
 件名：図書館 -- オートメーション ; 情報処理 ; 大学図書館

(2) RECON ファイルの導入

Webcat の検索対象ファイルに ,RECON を追加します。データの表示順は、総合目録レコードと RECON レコード混在で、タイトルのヨミ順となります。

簡略表示及び詳細表示においてタイトルの先頭に「***」がついているのが、RECON ファイルのレコードです。

(例)

72.The apostolic fathers / with an English tr. by Kirsopp Lake ; 1 American - 2 British. -- Harvard University Press ; London : William Heinemann, 1912. -- (Loeb classical library ; no. 24-25)

73.***The classical theory of electricity and magnetism / by Max Abraham; rev. by Richard Becker; authorized tr. by John Dougall. -- 2d ed. -- Blackie, 1958

74.The construction of the history of religion in Schelling's positive philosophy : its presuppositions and principles / Paul Tillich ; tr. with an introd. and notes by Victor Nuovo. -- Bucknell University Press, 1974

(図書目録情報係)

学術情報センターの移転及び国立情報学研究所への改組

平成 12 年 2 月 15 日 (火), 学術情報センターは千代田区一ツ橋の新庁舎ビルに移転し, 住所及び電話番号は下記のとおりとなりました。目録所在情報サービスに関わる担当係の電話番号, FAX 番号が変わりましたので, 御注意ください。

また, 学術情報センターは, 平成 12 年 4 月から「国立情報学研究所」に改組する予定です。改組後の目録所在情報サービスの担当係名, 連絡先については, あらためて連絡いたします。

(移転に関する HP)

URL: <http://www.nacsis.ac.jp/brief/iten000221.html>

記

郵便番号 : 〒101-8430

住 所 : 東京都千代田区一ツ橋 2 丁目 1 番 2 号
学術総合センター内

電話番号 : 代表 03-4212-2000

問 合 せ 内 容	担 当 係 名	E-mail アドレス	電 話 番 号	F A X
利用申請に関すること	共同利用第一係	kyouri@ad.nacsis.ac.jp	03-4212-2135	03-4212-2150
システム運用に関すること	システム業務係	gyoum@op.nacsis.ac.jp	043-285-4911	043-290-1380
図書目録に関すること	図書目録情報係	catadm@op.nacsis.ac.jp	03-4212-2355	03-4212-2375
雑誌目録に関すること	雑誌目録情報係	catadm@op.nacsis.ac.jp	03-4212-2360	03-4212-2375
I L L に関すること	相互協力係	illadm@op.nacsis.ac.jp	03-4212-2365	03-4212-2375
講習会に関すること	企 画 係	edu@hrd.nacsis.ac.jp	03-4212-2165	03-4212-2180

(図書目録情報係)

総合目録データベースの品質管理事例集（その5: 図書所蔵編）

本号では、図書の所蔵レコードの好ましい記録の仕方と、誤りがちな点について取り上げます。

この事例集の中では、次のような略称で参照先の資料を示します。

基準 4	目録情報の基準．第 4 版
検索編 4	目録システム利用マニュアル．検索編．第 4 版
登録編 4	目録システム利用マニュアル．登録編．第 4 版
CM	目録システムコーディングマニュアル
抜刷集	オンライン・システムニュースレター抜刷集
NL	オンライン・システムニュースレター

1. 図書所蔵レコード

(1) 複数の出版物理単位からなるレコード

図書の所蔵レコードは、記述の仕方に厳密な規則がないため、様々に記録されている場合があります。記録の仕方によっては、所蔵状況が不明確となり、相互貸借（ILL）業務に支障をきたしてしまうことになります。

所蔵レコードの記録のパターンを見てみましょう。

(書誌レコード)

```
<BN*****1>
GMD: SMD: YEAR:1997-1999 CNTRY:ja TTL:jp
TXTL:jpn ORGL:
VOL:1 ISBN: PRICE:1200 円
VOL:2 ISBN: PRICE:1200 円
VOL:3 ISBN: PRICE:1200 円
TR:日本経済と外圧 / 経済研究機構編集||ニホ ケイ
ザイトガイツ
PUB:東京 : 経済研究機構 , 1997-1999
:
```

【所蔵レコードの例 ①】

```
<BN*****1>日本経済と外圧 / 経済研究機構編
集 ; 1, 2, 3. -- 経済研究機構, 1997-1999.
<FA*****1> A 図
<CC*****1>
LOC:書庫
VOL:1 CLN:331||Kei1 RGTN:199700210
VOL:3 CLN:331||Kei3 RGTN:199900973
```

事例の解説

A 図書館は、所蔵している巻冊次に対して、請求記号（CLN）と登録番号（RGTN）を記録しています。資料の1巻と3巻を所蔵していますが、2巻は所蔵していません。所蔵していない巻冊次に相当するフィールド（VOL）は削除しています。

これが最も適切な記述方法と言えます。

【所蔵レコードの例 ②】

```
<BN*****1>日本経済と外圧 / 経済研究機構編
集 ; 1, 2, 3. -- 経済研究機構, 1997-1999.
<FA*****2> B 図
<CC*****2>
LOC:
VOL:1 CLN:331||Kei1 RGTN:199700210
VOL:2
VOL:3 CLN:331||Kei3 RGTN:199900973
```

事例の解説

B 図書館は、所蔵している巻冊次に対して、請求記号（CLN）と登録番号（RGTN）を記録しています。資料の1巻と3巻を所蔵していますが、2巻は所蔵していません。

この記述方法は、後に2巻を受け、所蔵レコードを修正する時に、目録担当者にとっては都合の良い方法とも言えます。

しかし、例えば相互貸借業務で2巻を所蔵している図書館だけを検索しようとしても、このレコードもヒットしてしまうため、依頼館は1つ1つ所蔵レコードを詳細表示して確認しなければなりません。

【所蔵レコードの例 ③】

```
<BN*****1>日本経済と外圧 / 経済研究機構編
集 ; 1, 2, 3. -- 経済研究機構, 1997-1999.
<FA*****3> C 図
<CC*****3>
LOC:
VOL:1
VOL:3
```

【所蔵レコードの例 ④】

```
<BN*****1>日本経済と外圧 / 経済研究機構編
集 ; 1, 2, 3. -- 経済研究機構, 1997-1999.
<FA*****4> D 図
<CC*****4>
LOC:
VOL:1
VOL:2
VOL:3
```

事例の解説

C 図書館と D 図書館は、VOL フィールド以外に所蔵状況に関して具体的に記述していません。もちろん、請求記号 (CLN) や登録番号 (RGTN) 等の記述は必須ではありません。所蔵レコードをどのように記録するかは、各図書館の判断に委ねられています。

しかし、例えば ③ では、所蔵していない巻冊次の巻冊次等に関するフィールド (VOL) が削除されていることで、資料の1巻と3巻を所蔵していて2巻は所蔵していないと推測できますが、④ は、1巻から3巻まですべてを所蔵していると考えてよいのか、不明です。

相互貸借業務で依頼したものの、実際には求める巻冊次を所蔵していなかった、ということになると、所蔵を確認する自館も、他の図書館に依頼する依頼館も、余計な手間がかかることになります。

所蔵レコードに、存在しない情報 (所蔵していない VOL フィールド) を記述しないようにお願いします。

(2) 親書誌レコードと子書誌レコード

階層があるものに、所蔵レコードを誤って登録している場合があるため、所蔵レコードの作成単位についてまとめておきます。

①通常の書誌構造

(親書誌レコード)

```
<BN*****2>
GMD: SMD: YEAR: CNTRY:ja TTLL:jpn TXTL:und
ORGL:
VOL: ISBN: PRICE:
TR:異国から見る日本文学||イコカ カラ ミル ニホン ブンガク
PUB:東京 : 綺堂出版
:
```

(子書誌レコード)

```
<BN*****3>
GMD: SMD: YEAR:1998 CNTRY:ja TTLL:jpn
TXTL:jpn ORGL:
VOL: ISBN: PRICE:1200 円
TR:芥川竜之介と古典 / 斎藤芳江 [編集]||アツカワ リウノスケ ト コン
PUB:東京 : 綺堂出版 , 1998.10
:
PTBL:異国から見る日本文学||イコカ カラ ミル ニホン ブンガク <BN*****2>
```

【所蔵レコードの例】

所蔵レコードは親書誌レコードには登録しない

```
<BN*****3>芥川竜之介と古典 / 斎藤芳江 [編集]. -- 綺堂出版, 1998. - (異国から見る日本文学).
<FA*****1> A 図
<CC*****5>
LOC:
VOL: CLN:910||Sai1 RGTN:1998010324
```

事例の解説

所蔵レコードは、親書誌レコードにまとめて登録するのではなく、各子書誌レコードにそれぞれ登録します。

関連規則及び関連事例

・図書所蔵レコードの作成単位

- 図書書誌レコードが書誌構造を有する場合、図書所蔵レコードは、原則として、単行書誌単位のレコード(子書誌レコード)に対応して作成する。(→ 基準 4 5.2.2)
- 記述対象資料の所蔵状況の記録は、原則として、単行書誌単位のレベルで行う。(→ 基準 4 4.3.4)

② バランスしない書誌構造

(親書誌レコード)

```
<BN*****4>
GMD: SMD: YEAR: CNTRY:ja TTLL:jpn TXTL:jpn
ORGL:
VOL:(索引) ISBN: PRICE:
TR:美の系譜||ビ'ノケイ
PUB:東京 : 大同出版
:
```

(子書誌レコード)

```
<BN*****5>
GMD: SMD: YEAR:1997 CNTRY:ja TTLL:jpn
TXTL:jpn ORGL:
VOL: ISBN: PRICE:2800 円
TR:能面の系譜 / 木村弘毅著||ノケンノケイ
PUB:東京 : 大同出版 , 1997.7
:
PTBL:美の系譜||ビ'ノケイ <BN*****4>
```

【所蔵レコードの例】

```
<BN*****4>美の系譜 - 大同出版.
<FA*****1> A 図
<CC*****6>
LOC:
VOL:(索引) CLN:708||25 RGTN:199700593
```

```
<BN*****5>能面の系譜 / 木村弘毅著. - 大同出版, 1997. - (美の系譜).
<FA*****1> A 図
<CC*****7>
LOC:
VOL: CLN:708||5 RGTN:199700573
```

事例の解説

「索引」は固有のタイトルではないため、親書誌レコードに VOL を記述するというバランスしない書誌構造となっています。この場合、固有のタイトルを有するものは子書誌レコードにそれぞれ所蔵レコードを登録し、固有のタイトルではないものは親書誌レコードに所蔵レコードを登録します。

関連規則及び関連事例

・図書所蔵レコードの作成単位

- 記述対象資料の所蔵状況の記録は、原則として、単行書誌単位のレベルで行う。ただし、バランスしない書誌構造においては、親書誌レコードに対して所蔵リンクを形成することがある。(→ 基準 4 4.3.4)

・バランスしない書誌構造

- 「バランスしない書誌構造」とは、集合書誌単位を構成する個々の出版物理単位が、同一の書誌階層に並ばないことをいう。固有のタイトルを有するものについては子書誌レコードを作成し、そうでないものについては親書誌レコードに記録する(親書誌レコードの VOL の繰り返しで表現する)。なお、所蔵レコードは、対応する書誌レコードとリンクを形成する。(→ 基準 4 4.3.1)

③重複レコード

(親書誌レコード)

```
<BN*****6>
GMD: SMD: YEAR:1998 CNTRY:ja TTL:jpj
TXTL:jpn ORGL:
VOL: ① ISBN: PRICE:
VOL: 2 ISBN: PRICE:
VOL: 3 ISBN: PRICE:
TR:郷土史研究/ 郷土史研究会編||キョウトシ ケンキュウ
PUB:東京 : 郷土史研究会, 1998-
CW:1: 街道と市||カイトウトイ
CW:2: 民間信仰の伝播||ミンカ シンカ ノ デンパ
CW:3: 地名と姓||チメイトセイ
:
```

(子書誌レコード)

```
<BN*****7>
GMD: SMD: YEAR:1998 CNTRY:ja TTL:jpj
TXTL:jpn ORGL:
VOL: ISBN: PRICE:2800 円
TR:(街道と市) / 郷土史研究会編||カイトウトイ
PUB:東京 : 郷土史研究会, 1998.5
:
PTBL:郷土史研究/ 郷土史研究会編||キョウトシ ケンキュウ
<BN*****6>①/a
```

事例の解説

これは重複レコードであるため、学術情報センターで調整することになります。

各巻のタイトル(この場合「街道と市」)が規定の情報源に記されていれば右のレコードのように子書誌レコードとして記録され、そうではなく、例えば目次にのみ各巻のタイトルが記述されている場合などは左のレコードのようにVOLの繰り返しで記録されるべきものです。所蔵レコードは、規定の情報源に固有のタイトルがあるかどうかを判断して、正しい方に登録してください。

【規定の情報源に固有のタイトルがない場合】

(書誌レコード)

```
<BN*****6>
GMD: SMD: YEAR:1998 CNTRY:ja TTL:jpj
TXTL:jpn ORGL:
VOL: ① ISBN: PRICE:
VOL: 2 ISBN: PRICE:
VOL: 3 ISBN: PRICE:
TR:郷土史研究/ 郷土史研究会編||キョウトシ ケンキュウ
PUB:東京 : 郷土史研究会, 1998-
CW:1: 街道と市||カイトウトイ
CW:2: 民間信仰の伝播||ミンカ シンカ ノ デンパ
CW:3: 地名と姓||チメイトセイ
:
```

(所蔵レコード)

```
<BN*****6>郷土史研究/ 郷土史研究会編 - 郷土史研究会, 1998.
<FA*****1> A 図
<CC*****8>
LOC:
VOL: ① CLN:213||1 RGTN:199800627
VOL: 2 CLN:213||2 RGTN:199804928
VOL: 3 CLN:213||3 RGTN:199900038
```

【規定の情報源に固有のタイトルがある場合】

(書誌レコード)

```
<BN*****7>
GMD: SMD: YEAR:1998 CNTRY:ja TTL:jpj
TXTL:jpn ORGL:
VOL: ISBN: PRICE:2800 円
TR:(街道と市) / 郷土史研究会編||カイトウトイ
PUB:東京 : 郷土史研究会, 1998.5
:
PTBL:郷土史研究/ 郷土史研究会編||キョウトシ ケンキュウ
<BN*****6>①/a
```

(所蔵レコード)

```
<BN*****7>(街道と市) 郷土史研究会編 - 郷土史研究会, 1998. - (郷土史研究 ①).
<FA*****1> A 図
<CC*****9>
LOC:
VOL: CLN:213||1 RGTN:199800627
```

(図書目録情報係)

目録所在情報サービスの運用時間の変更

平成 12 年 2 月から、システムメンテナンスのために休止していた毎月第 4 木曜日の午後も、通常日と同様の運用時間でサービスを行うこととしましたのでお知らせします。

これにより業務システムのサービス時間帯は、次のようになりました。

月曜日 - 水曜日、金曜日： 9:00 ~ 20:00

木曜日： 9:00 ~ 18:00

(システム管理課)

教育モードの接続先の変更

平成 12 年 1 月のメインシステムの機種更新に伴い、旧 CAT/ILL システムの教育モードの接続先が、下記のとおり変更となりました。

変更前： ir.nacsis.ac.jp

変更後： cat-e.nacsis.ac.jp

御利用なさる場合は、図書館システム側での設定変更をお願いします。

(システム管理課)

個別版 CD-ROM 提供サービス 平成 12 年度分募集

以下の要領で、「個別版 CD-ROM 提供サービス」の平成 12 年度分を募集します。個別版 CD-ROM のサービス内容については、次の URL を御覧ください。

URL: <http://www.cat.op.nacsis.ac.jp/INFO/kobetsu-cd/kobetsu-cd-rom.html>

1. サービス提供条件

1) 対応機種及び OS

- NEC-9801VX 以降に発売された PC-98 シリーズで MS-DOS バージョン 3.3 以上
- IBM-PC またはその 100%互換機で DOS/V バージョン 5.0 以上

2) 対象機関

- 目録所在情報サービスの参加組織（学総目参加機関を含む）

3) 収納対象

- 総合目録データベースに登録された図書・雑誌の書誌・所蔵データ
- 図書のみ，雑誌のみでも受け付けます
- 和洋別の作成はできません

4) 作成単位

- 単一の参加組織，またはいくつかの参加組織からなるグループ（機関全体や大学と短期大学の集合など）。ただし，後者の場合はグループに属する全ての参加組織の同意が必要です
- 他の機関の参加組織を含めたグループも可能ですが，この場合は，対象機関の同意書 [別紙 4] が必要です
- 配置コード単位でも作成できる場合があります

5) 収納件数

- 上記作成単位の平成 12 年 3 月末現在の収納所蔵件数の合計が 12 万件を限度とします

6) 提供頻度

- 年 4 回，または年 1 回

7) 提供セット数

- 同一の CD-ROM を最大 5 セットまで

8) 提供時期

- 受諾書において個別に通知します。
- 年 1 回提供の場合は，おおむね 7 月～8 月です
- 年 4 回提供の場合の第 1 回提供は，おおむね 5 月～6 月です

9) 提供価格

対象件数	1 セット単価	2 ~ 5 セットの単価
3 万件以下	10,000 円	5,000 円
6 万件以下	20,000 円	10,000 円
9 万件以下	30,000 円	15,000 円
12 万件以下	40,000 円	20,000 円

(注1) 対象件数は、平成12年3月末現在の収納所蔵件数

(注2) いずれも1セットあたりの消費税込みの価格です

(注3) 例えば、作成対象件数が3万件的機関が年4回(5セット)申し込む場合、

$$4 \times (10,000 + 5,000 \times 4) = 120,000$$

で、12万円となります

10) CD-ROMの保証期間

- 提供するCD-ROMについては、通常の使用で一年間保証します。通常の使用で障害が生じた場合は、一年以内であれば無償で交換します

2. 申込締切

平成12年4月28日(金)必着。

3. 申込方法

以下の方法で申込書を配布しております。

- URL: http://www.cat.op.nacsis.ac.jp/INFO/kobetsu-cd/application_form.pdf
(PDF形式ファイル)
- オンライン・システムニュースレター No.62
- 下記問い合わせ先に **FAX** で請求してください(電話は御遠慮ください)

申込書に記入の上、下記の問い合わせ先へお送りください。

* 他機関との合同作成でない場合は、同意書[別紙4]は不要

4. 問い合わせ先

〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋2-1-2

学術情報センタ - 事業部目録情報課相互協力係 気付

財団法人 電気・電子情報学術振興財団

電話：(03)4212-2365, 2366 (直通)

FAX：(03)4212-2375

(相互協力係)

会議開催報告

平成 11 年度 学術情報センター総合目録委員会

[日時]

平成 11 年 12 月 21 日 (火) 10:00 ~ 12:00

[議事]

1. 学術情報センターの目録所在情報サービスの利用に関する規則及び同細則の改訂について
2. 学術情報センター総合目録小委員会の審議経過
3. 「目録情報の基準」の一部改訂
4. 目録所在情報サービスにおける韓国・朝鮮語資料の入力基準の検討状況
5. 目録所在情報サービスにおけるインターネット上のコンテンツ(電子ジャーナル)の入力基準
6. 目録所在情報サービスにおける古籍の入力基準の検討方針
7. 米国等の学術情報サービス機関との NACSIS-CAT/ILL 相互利用の検討状況
8. その他

平成 11 年度第 1 回 韓国・朝鮮語資料データベース化検討ワーキンググループ

[日時]

平成 11 年 12 月 16 日 (木) 10:00 ~ 12:00

[議事]

1. 韓国・朝鮮語資料データベース化検討ワーキンググループ設置の経緯について
2. 韓国・朝鮮語資料の取扱いにおける検討事項について

韓国・朝鮮語資料データベース化検討ワーキンググループメンバー

氏名	所属・役職等
石川 武敏	国立国会図書館専門資料部アジア資料課主査
合田 晃一	東京大学東洋文化研究所図書第二掛長
鈴木 裕子	日本貿易振興会アジア経済研究所図書室図書整備課
中野由紀夫	九州大学附属図書館医学分館参考調査掛長
林 昌夫	東京都立多摩図書館協力課資料係
村上 健治	大阪大学附属図書館情報管理課和書目録情報掛
宮澤 彰	学術情報センター研究開発部教授(主査)
孫 媛	” ” 助教授
酒井 清彦	” 事業部目録情報課課長補佐
富田 健市	” ” 目録専門員
米澤 誠	” ” 図書目録情報係長

(図書目録情報係)